

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	With コロナ時代の学生生活マニュアル
研究者所属・氏名	研究代表者：後藤哲也 共同研究者：Kontrapunkt Japan

1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

新型コロナウイルスの感染収束が見えず、2020年度は対面授業の機会が少なくなったため、学生間のコミュニケーションが不足してしまった。この状況下、これまで空きコマなどで行っていた雑談レベルの情報交換ができないという問題を解消するべく、新しい大学生活様式に「空きコマ」的な時間と空間を生み出すオンラインサービスの制作を試みる。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

大学生生活に特化したオンラインサービスに必要なコンテンツについて、文芸学部文化デザイン学科「視覚デザインゼミ III（3年後藤ゼミ）」で調査した結果、大学の課題や課外活動を通じて学内の学生とつながる SNS のニーズを確認した。

Instagram や Twitter などの SNS でのつながりはすでにあるが、課題を投稿したりする学生生活に特化 SNS があれば、同級生はもちろん、上級生／下級生とのつながりを生むことができると考えた。オンライン授業が続くなか、そして今後もオンライン授業の可能性を孕んだ状況下において、大学というリアルな場所だけでなく、オンラインにもうひとつの教室的な場所を生み出すことを目的として、「アキコマ（空きコマ）」というサービスの企画を学生と行なった。

ネーミングに加えて、必要なコンテンツの洗い出しを行い、それを企画とラフデザインに落とし込んだ。それをベースに、これまで文化デザイン学科と複数のプロジェクトを協働してきたデンマークのデザインエージェンシー「Kontrapunkt（コントラプンクト）」とともにオンラインデザインワークショップを複数回行い、かたちにしていった（※デンマークは、行政や銀行などのサービスのデジタル化に早くから取り組んでおり、Kontrapunkt もそのようなサービスに関するデザインの実績がある）。

ゼロから SNS を構築することは予算的にも時間的にも困難なため、既存のプログラム（wordpress というコンテンツマネジメントシステム）を応用しながら、学生が親しみを持てるインターフェイスを3月までに構築。3月は後藤ゼミ学生有志で試験的に投稿を行い、改善点を確認した。3月末現在、プラットフォームとなるサイトが完成した。<https://akikoma.net/>

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

2021年度前期の授業「プロジェクト演習」において、本サービス「アキコマ」をいかに学科～学部へ浸透させるかというプロモーション課題に取り組む。

その活動には、卒業生を含む上級生へのヒアリング活動や、イベントの実施なども想定。単にサービスをつくっただけでなく、リアルなつながりを生む施策を行う。

現在はデザイン系の演習課題の投稿が中心に見えるが、これからそれ以外の論文などの投稿も（著作権などの問題に留意しつつ）促していく。当面は研究代表者が所属する文化デザイン学科や文芸学部を中心に活動を展開し、他学科あるいは他大学への展開が可能かを検証する。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

オンラインサービスであるため、オンラインでの発表を中心に行う予定。
いわゆる学術研究とは異なるため、プレスリリースのようなかたちで外部発信を試みたいと考えている。